

1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	2490200215		
法人名	社会福祉法人青山里会		
事業所名	桜グループホーム		
所在地	三重県四日市市智積町1095番地		
自己評価作成日	令和6年1月3日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&ligvosvoCd=2490200215-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和6年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

桜グループホームは、鈴鹿山脈のふもとに位置し、自然豊かな場所にあります。施設の近くの矢合川沿いでは、季節の花が咲き、四季折々の景色がみられます。また、名水百選に認定されている智積養水では、透き通った水の中を鯉が泳ぐ姿が見られます。「一人ひとりを尊重し笑顔あふれる家」をモットーに、日々の楽しさを大切に、その方らしい生活が送れるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)】

令和5年の正月、近くの氏神様である椿岸神社への初詣は理念である「1人ひとりを尊重し笑顔あふれる家」を実践するような笑顔から始まった。日々の生活で笑顔が更に溢れる食事では、広い庭での焼肉ランチ・焼きたてピザパーティー・きのこパーティーなどを楽しんだ。また近所の幼稚園の子供たちの来訪に、利用者は目を細めた優しい笑顔で迎えている。庭に植えたさつま芋とじゃが芋の大豊作の収穫時には自慢気な笑顔や、家族と一緒に楽しんだ夏祭りや花火では、多くの笑い声が庭いっぱいに広がった。令和6年からは、コロナ禍以前の笑顔より、更に沢山の笑顔を見たいと考えている。そのスタートとして、利用者一番の要望である自宅訪問を実現する予定である。沢山の笑顔が連鎖し自然と身も心も充実する支援に力を注いでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の中に、頼りがいの実現。地域になくはない存在になります。とあり、今年度は地域交流を積極的に行い、なじみの関係づくりに努めた。	自分の家に居る様に気楽に生活して欲しいと「笑顔あふれる家」を目指している。職員全体で日々の支援中に、意識づけしながら共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度から出来る限り参加している。町内清掃、夏祭り、秋祭り、運動会、近隣幼稚園との交流等を行った。	徐々に地域も色々な行事が再開し参加できるようになった。椿岸神社の神事や夏祭りへの参加、近所の幼稚園児の訪問、町内清掃への参加など地域との付き合いは良好である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事に参加することで地域の方と話す機会が増え、事業所の存在を知ってもらうきっかけになっている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	頂いた意見を毎月のミーティングで共有している。	令和5年9月と11月に対面開催し、それまではコロナ禍のため文書での報告である。事前質問への回答や「ヒヤリハット」の報告と対策や感想等もあり充実した報告書である。報告書は参加者へ送っていたが今後は全家族へも送る予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に電話やメールで取り組んでいる。	市民センターへはよく相談に出かけている。一昨年の実地指導は市役所の介護保険課が担当であったが何の問題もなく指導もなかった。運営推進会議への参加、質問など積極的であり良好な関係である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月毎の委員会、年2回以上の研修を行い、必要に応じ申し送り時などに話し合っている。玄関は自動で施錠されているが、外へ出たい等、出来る限り希望に添えるよう対応させていただいている。	委員会は毎月の会議で気になった事や研修会の議題を話し合っている。職員研修として車椅子の利用者体験で、言葉使いや支援の方法等から拘束をしないケアについて勉強する予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	3ヶ月毎の委員会、年2回以上の研修を行い、必要に応じ申し送り時などに話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している方はいないが、必要時には関係機関と連絡を取り合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくり説明できる時間を確保し、理解いただけるまで、説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、ケアプラン作成前や来所時になるべくお話しをさせていただき、意見をいただいた時はミーティングや日々の申し送りで共有し話し合っている。	家族アンケートには感謝の言葉が溢れ、家族も協力的であると職員への感謝の言葉もある。話す機会は、面会時や病院への受診時が多いが、2月からは居室での面会を可能にする予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りやミーティングで意見を出し話し合い反映させている。	気楽に話せる環境であり、職員の話は支援中に聞くことが多い。職員の年齢は30歳代から80歳代と幅広く、それぞれの年代や経験からの助言や考えは、お互いにいい刺激になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末に人事考課があり、自己評価・個別面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修、外部の研修に積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内ではあるが他グループホームと毎月会議を行ったり、研修も行っている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	様々な場面で何に困られてみえるのか、心配なことは何か、ゆっくりと本人に話を聞けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居時に家族とゆっくりと話せる時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前任のケアマネージャーに聞いたり、本人やご家族と話をし対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等の際には「一緒をお願いします」「助けてもらえますか」とお声掛けし、終わった時は「助かりました」「ありがとうございます」など感謝の言葉を伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や連絡時には出来る限り普段の様子を伝え、何かあった際は相談し、了解を得るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度より、地域行事には出来る限り参加しているものの、個人的な外出は法人内で規制させていただいており、あまり出来ていない。	利用者は地元出身者が多く散歩中のお喋りは貴重である。ボランティア活動の経験者である利用者は、夏祭りで偶然仲間に出会い貴重な時間を過ごした。又、家族との馴染みの岐阜県への外出等、継続支援に力を入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が話の橋渡しをしたり、きつい口調になってしまわれたときは、間に入り、話を何うように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、いつでも遠慮なく相談いただきたい旨、伝えている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活をお聞きし、入居後は本人の意向に耳を傾けご希望の添えるよう努めている。難しい場合は、ご本人の反応や家族に相談し検討している。	支援中・リハビリ中・料理や掃除中・入浴中など、常に言葉や表情などで思いや意向の把握に努めている。一人ひとりの個性を活かす方法や支援内容をチームとして考えており、介護計画に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族からお聞きし、入居前はケアマネジャーや利用していた事業所職員からお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり、どこまで出来てどこか助けが必要か、個別に見極め把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い、ケアマネジャー・担当職員を中心に、モニタリングと介護計画を作成している。	毎月の職員会議後モニタリングを行っている。支援中の気付き等は介護計画表へ赤色で記録し、利用者の担当者はそれを、介護支援専門員と話し合い介護計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りやミーティング、カンファレンスで情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望時には個別に対応させていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事以外でも地域の方や子供たちとの交流、日々の散歩を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り、入居前のかかりつけ医を継続していただいている。	利用者全員が入居前のかかりつけ医を継続している。4名の家族は事業所が準備した情報を持って受診に出掛け、5名は月2回かかりつけ医が事業所へ訪問診療に来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になることがある時は、それぞれのかかりつけ医や看護師に相談させていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	必要に応じて、病院関係者に相談連絡を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の希望をお聞きし、入居後も必要に応じ家族と話し合い、本人・家族・医療関係者と密に連絡を取り、終末期の支援に取り組んでいる。	重度化及び終末期支援の指針に沿った話し合いはしているが、医療連携加算や看取り加算は取っていない。だが昨年ひとり看取りを行った。家族に感謝され、かかりつけ医の協力も密であった。今後も看取り支援を行う予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について、研修に参加し委員会やミーティングで伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所が法人内の他事業所となっており、地域との協力体制は取れていない。	定期的な避難訓練は行っている。これからは地域との訓練を計画したいと考えている。BCP(業務継続計画)については来月に再度法人との会議にて話し合う予定である。消防署からの要望で大掛かりな消防訓練を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にし、その人一人ひとりに応じた対応を行っている。	聞いて不愉快になるような言葉や、荒い声掛け、くどい言い方には特に注意している。一人ひとりに応じた対応にも注意し、尊厳やプライバシーを傷つけないように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さなことでも選択できるよう、声のかけ方に気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声は掛けさせていただくが、無理強いはず、一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に洋服を選んだり、髪分け目をどちらにするか等、一人ひとりに応じた対応を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から後片付けまで、それぞれ出来ることを行って頂いている。	材料は業者から納入し、野菜切り・味付け・盛り付け・片付け等、利用者一人ひとりの活躍を大事にしている。ピザやグラタン等の希望も叶えられ、暮らしの中で一番の楽しみを満喫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じた食事形態で提供し、その人に合わせて声をかけるなどの対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ではないが、夕食後はそれぞれに応じた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り布パンツで過ごしていただけるよう、それぞれの排泄パターンに応じて声を掛けさせていただいている。	3名が布パンツ、6名がリハビリパンツであるが、排泄行為については5名が自立している。全員の見守りと排泄チェック表を記録し、排便についても水分量と運動に注意して体調管理に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分を摂っていただいたり、おやつに食べる物の工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いせず、ご希望を聞いて入浴していただいている。	毎日入浴可能であるが、基本は一日置き、午後からの入浴である。一人ひとりの習慣や希望を考慮しながら楽しく入浴出来る様に支援している。職員との秘密の話をお喋りするのを楽しみの一つである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方にペース合わせて休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者を中心に薬の管理を行い、症状の変化に気づけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ、好きなこと得意なことを活かせるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	まだ外出には制限をさせていただいており、すべての希望に沿うのは難しいが、できる範囲で希望をかなえられるよう支援している。地域行事へは積極的に参加している。	日常の散歩は、神社で参拝後、智積養水の鯉に餌をあげ、水路に沿って歩き、事業所へ帰るコースである。広い庭へ近所の幼稚園の園児が自然観察に来訪してくれるのも、楽しみのひとつになっている。	コロナ禍が続く中、レクリエーションや様々なイベント等に、沢山の力を注いで来た事はとても喜ばれている。今年からは更なる利用者の心身共に楽しい、外出支援の工夫や企画をされる事を期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出を制限させていただいているため、お金を使う機会は少ないが、地域行事の際、買い物をしていただいた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は返事を書くお手伝いをさせていただいている。電話は本人の希望がある時は対応させていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごしていただけるよう、工夫を行っている。花や観葉植物、季節の飾り物などを取り入れている。	布で作った手作りの飾りが、玄関、居室の入り口、フロアーの壁面に沢山飾られてある。利用者と一緒に作った手作り作品である。又、殆どの作品に着物の端切れが使われており、利用者の人気となっている。利用者の状況に応じたソファやテレビなどの配置も喜ばれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング食卓の奥に、ソファとテレビがあり、ゆったり過ごしていただけるスペースとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ、なじみの家具を持参されたり、好みのものを置かれたりしている。	居室は南向きで明るく居室ドアも大きく、ゆったり寛げる間取りである。テレビ、テーブル、チェスト等、お気に入りの写真、ぬいぐるみ、本等、気に入った品々が持ち込まれ、本人の暮らしが過ごし易い設えになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は段差なく、廊下は手すりを伝って歩いていけるようになっている。		